

図16. 発震機構解から求められた広域応力と非弾性変形と等価なモーメント(Matsumoto et al., 2012)。モーメントの赤、青線は伸張、圧縮力源を示す。a), b) はそれぞれ7.5km より浅部、以深の結果を示す。c) は断層に沿った断面図。青丸は応力集中、橙丸は緩和を表している。緑は断層滑りの位置。黄色のカラーはGPSによる滑り分布(Nishimura et al., 2006) とAsano & Iwata (2006) による強震データを用いた滑り分布 (九州大学 [課題番号: 2303]) 。

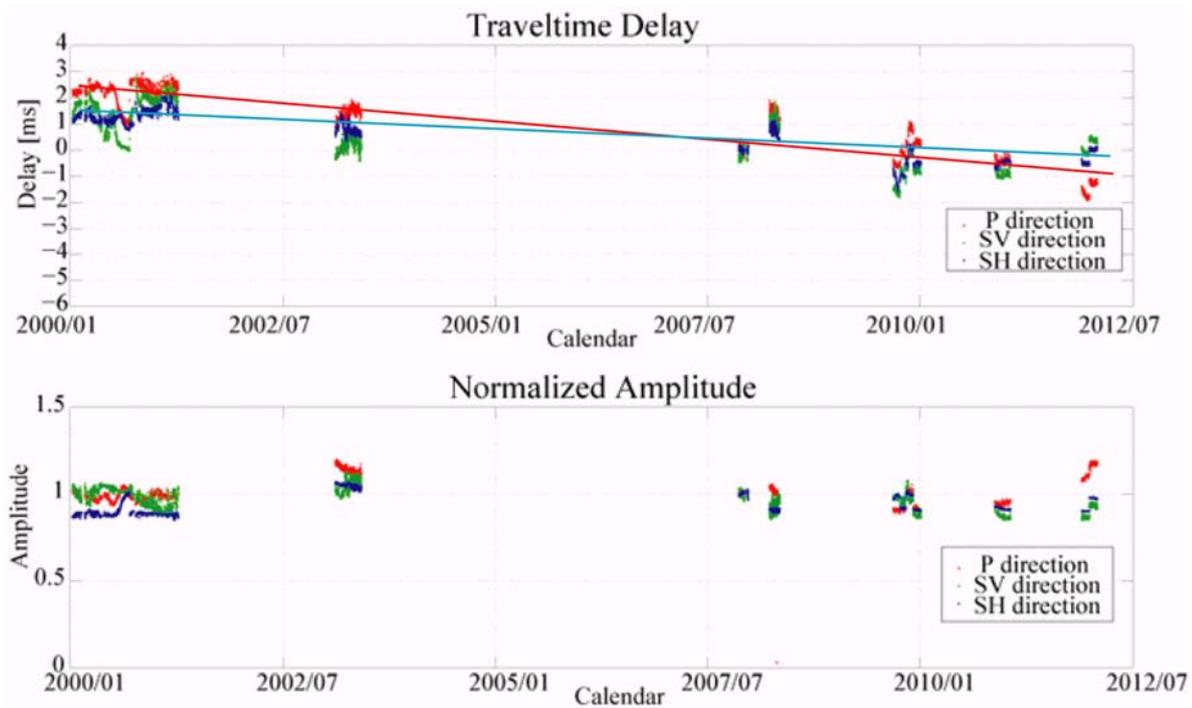


図17. 2000年1月～2012年2月にかけてアクロス連続運転により測定された、野島断層近傍における直達波（P波及びS波）の走時（上）及び振幅（下）の時間変化。赤、緑、青はそれぞれ、P波、断層に直交するS波、断層に平行なS波を示す（京都大学防災研究所〔課題番号：1808〕）。

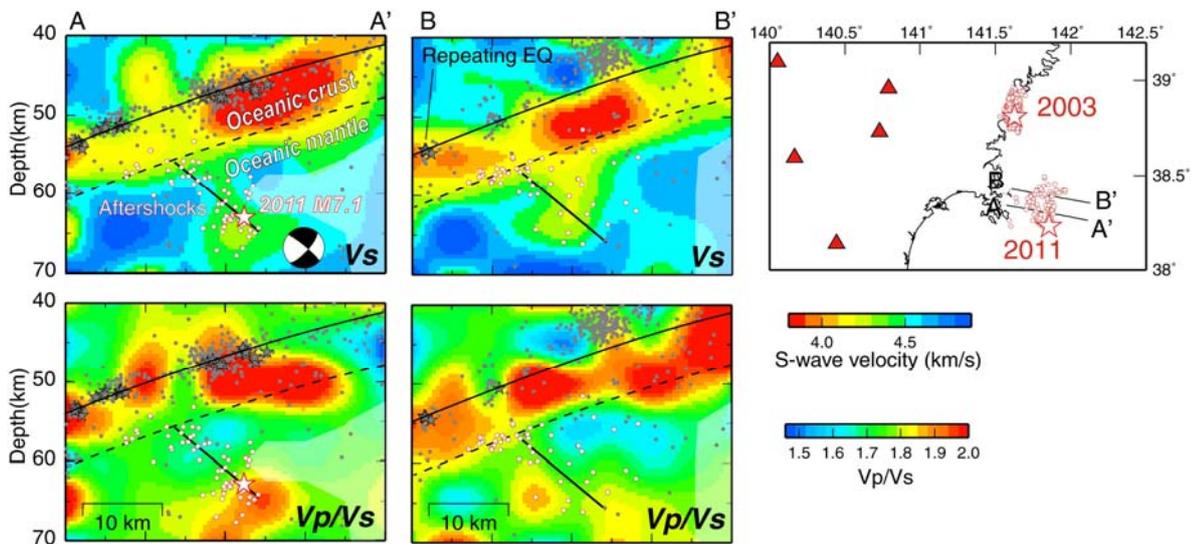


図18. 2011年4月7日のスラブ内地震（M7.1）の本震・余震の震源分布とその周辺の速度構造（東北大学〔課題番号：1208〕）。震源域を通る測線A-A'，B-B'に沿う鉛直断面を示す。上がVs，下がVp/Vs構造。再決定された本震を赤星，余震を赤丸で示す。黒線は余震分布とメカニズム解から推定される断層面。

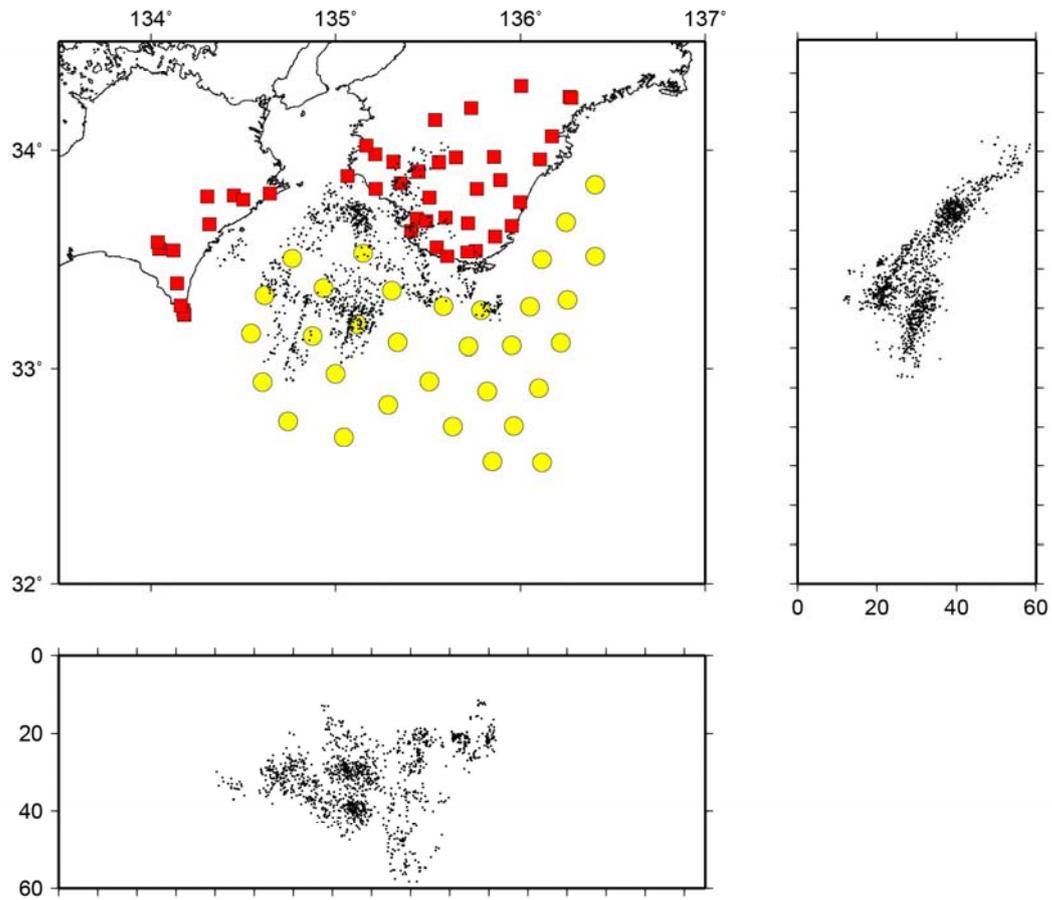


図19. 波形相関解析による相対走時差を考慮した震源決定結果。黒点が沈み込むフィリピン海プレート内で発生した地震の震源，黄丸が海底地震計観測点，赤四角が陸上観測点の位置を示す。紀伊水道沖に沈み込む紀南海山列下の海洋性マントル最上部に，線上にならんだ震源がみられる（東京大学[課題番号:1418]）。